

ICCAE



名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成14年4月1日発行 第4巻 第1号(年2回発行;通巻6号)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~iccae/index-j.html
e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

日本のODAを考える in 名古屋 21世紀における国際協力のあり方

農学国際教育協力研究センター
第3回オープンフォーラムを開催
(2001年12月7日～8日)

協力ネットワーク開発研究領域 北川勝弘

農学国際教育協力研究センターは、2001年12月7日、8日の2日間、「日本のODAを考えるin名古屋 21世紀における国際協力のあり方」をテーマとする第3回オープンフォーラムを、財団法人・愛知県国際交流協会と共催で、あいち国際プラザ(名古屋市中区)において開催した。フォーラムの目的は、発展途上国に対する日本と世界の国際協力を総括し、今後の国際協力はどうあるべきかを議論すること、特に国際協力を進めるうえでの困難さが他の地域と比較して多いアフリカにおける農業協力を題材として、具体的な改革の方向を議論することとされ、2日間で延べ125名が参加した。

初日の冒頭、文部科学省大臣官房国際課の木曾功課長



が来賓挨拶された。初日は、「ODAの成果と今後の改革方向」をサブテーマとして、5名の講演が行われた。①わが国のODAはどのように展開してきたか(小浜裕久・静岡県立大学教授)②開発援助手法の問題(木村洋・国連地域開発センター所長)③21世紀のODA改革の考え方(市川博也・上智大学教授)④農業技術普及分野における社会人教育(アクアモア・ボーテン・ケープコースト大学(ガーナ)教授)⑤アフリカはどこへゆくー農業の再建と人づくりを目指して(石弘之・東京大学教授)。

2日目は「アフリカ農業協力から見たODAー人づくりの視点から」をサブテーマとする、講演と討論が行われた。午前の部で、ナミビア大学学長・カチャビビ教授が特別講演「日本の大学の国際協力における役割ーナミビアからの期待」を、また国際協力事業団アフリカ/中近東/欧州部長・橋本栄治氏が「対アフリカ農業協力の課題と今後の方向性」と題する講演を行った。午後の部では、5名(①松村裕幸・国連世界食糧計画日本事務所長 ②高瀬国雄・(財)国際開発センター顧問 ③林幸博・日本大学助教授 ④浅沼修一・国際農林水産業研究センター科長 ⑤伊藤道夫・笹川アフリカ協会東京事務局員)の事例報告と、2日間全体の総合討論が行われた。

今回のフォーラムでは、講師陣から率直な問題提起がなされ、参加者からも「人づくり協力」の有効な進め方についての質問が出されるなど、2日間にわたり熱心な討論が行われた。



文部科学省 木曾 功 国際課長による来賓挨拶

特別講演中の
ナミビア大学カチャビビ学長

ICCAEとAICADが学術交流協定を締結

東アフリカ3カ国（ケニア、タンザニア、ウガンダ）の8国立大学によるコンソーシアム組織であるAICAD（アフリカ人づくり拠点研究所）のミチエカ所長（ジョモケニアツタ農工大学学長）が、昨年10月、名古屋大学ならびに当センターを訪問した折に、ICCAEとAICAD間の学術交流協定締結の申し出を受けた。その後、両組織間で検討を重ねた結果、研究交流をはじめ7項目の交流活動について合意に達し、去る3月19日に竹谷裕之センター長がAICAD事務局（ケニア共和国ナイロビ市）を訪問して、学術交流協定を締結した。署名式には、ミチエカ所長の他、ケニア内のAICAD加盟4大学の代表や、ケニア教育省、日本大使館、JICA事務所等から18名が参列した。

AICADは、加盟8大学の学長、3カ国政府教

育相とJICAで構成される運営評議会が決定権を持ち、3カ国が財政負担しJICAが支援協力する形の、いわば21世紀型のODAとして注目されている。今後、協定をベースとして、両組織を中心とする学術交流が積極的に展開されることが期待されている。



学術交流協定の調印式で署名する竹谷センター長（右から2人目；2002年3月19日、ケニア・ナイロビにて）

ICCAE 2001年度オープンセミナー開催

第3回オープンセミナー

日時：2001年10月19日（金） 13:30～15:00
場所：大学院生命農学研究科A館438号室
演題：アフリカ人づくり拠点(AICAD)プロジェクトの展望および日本—アフリカの大学間協力推進への期待
講師：Dr. JKZ. Mwatelah
AICADプロジェクト事務局長
ジョモケニアツタ農工大学(ケニア) Senior Lecturer

AICADプロジェクトのムワラテ事務局長が名古屋大学を訪問した機会に、AICADに関して講演を行った。岐阜大学教官も含めて教官や大学院生ら15名がセミナーに参加し、JICAが取り組んできた従来の海外協力プロジェクト等とは異なる、AICADプロジェクトの卓越性の如何についてなど、1時間近くにわたり活発な議論が行われた。

第4回オープンセミナー

日時：2001年12月20日（木） 15:00～17:00
場所：大学院生命農学研究科大会議室
演題：ナミビアにおける海藻産業の経済的将来性について
講師：Dr. R.J. Kandando
ナミビア大学農学部食品学科長

カンダンド氏は、ICCAEが取り組んでいるナミビア大学農学部強化支援計画に関連してICCAEに半月間滞在した折りに、研究対象の海藻の経済的な将来性に関して講演した。国連地域開発センターの研究者らを含む参加者（13名）との間で、ナミビア人の海藻に対する食習慣が増す可能性があるのかなど、つっこんだ議論が展開された。

第5回オープンセミナー

日時：2002年2月22日（金） 15:30～17:30
場所：大学院生命農学研究科A館330号室
演題：ODA改革を怠った過去10年のツケ—社会・自然環境の破壊問題に加えて浮上してきた債務キャンセル問題と国際公的不良債権の処理—
講師：鷲見一夫 新潟大学法学部教授

ナルマダ・ダム（インド）、アルンⅢダム（ネパール）、サマナラウェア・ダム、キリンダ漁港（スリランカ）、クダウン・オンボ・ダム、コタパンジャン・ダム（インドネシア）など、現地取材に基づく世界各地のODAによる公共事業建

設の問題点について話され、現地住民の立場から見てODAが本当に役立っているかどうか、吟味する必要がある、と強調された。生命農学研究科や国際開発研究科の大学院生や学生、教官など12名が参加し、ODA援助とわが国内におけるゼネコンによる公共事業展開との類似性など、熱心な質疑が行われた。



資料に基づき講演中の鷲見教授

客員教授紹介

ICCAEとJICAの末長いお付き合いを お願いします

国際協力事業団(JICA)国際協力総合研修所 金森 秀行
(任期:2001年7月1日~3月31日)

私は、技術協力業務をライフワークとする国際協力専門員として、2つの人づくりプロジェクトで、その形成段階から実施~終了まで一貫して参加した経験があります。そこで、ICCAEの客員教授として、「大学が実施機関となる農業分野の教育研究協力プロジェクト評価結果の分析による新規プロジェクト形成方法の改善に関する研究」を実施しました。これは、過去の終了プロジェクトの整理検討を行ない、新規プロジェクト形成に役立つ提言と教訓を導くことを目的とする研究でした。その中で、8プロジェクトについて、JICA報告書

71冊を要約した評価概要表を作成しました。さらに、協力実績と評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)を比較検討し、その結果をまとめました。こうして客員教授としての研究は終了しましたが、今後も国際協力専門員の研究業務として継続したいと思っておりますので、今後とも末長いお付き合いをお願いいたします。



略歴 1949年兵庫県生まれ。1974年香川大学農業工学科卒業後、鹿児島県庁に就職。1978年に同県庁を退職後、青年海外協力隊に参加してアフリカ・マラウイ国に派遣。1981年帰国後、82年に米国アイオワ州立大学修士課程(農業工学)に入学。1984年に同課程を修了後、国際協力事業団に就職し、フィリピンとルーマニアのプロジェクトに各5年ずつ専門家として勤務し、また各種のJICA調査研究業務および研修業務を実施して、現在に至る。

大学院カリキュラム開発に取り組んだ 3ヶ月

カンボジア王立農業大学(RUA)農業工学部長 ンゴ ブンタン
(任期:2001年12月9日~2002年3月8日)

現在、学部教育のみ実施しているRUAは、2002~03年度に大学院(修士課程)を開設する予定です。今回、私はICCAEのご厚意で客員教授として3ヶ月間ICCAEに滞在し、「大学院教育用カリキュラムの開発」を目的とする研究に取り組みました。研究の主眼は、大学院の教育制度、運営方式、修士課程カリキュラムの検討で、具体的には単位制度、大学院生指導方針、課程教育の実施と評価方法などを含みます。この間、ICCAEの松本教授からは、

日本と世界の大学院カリキュラムの到達点から学ぶという視点の重要性など、討議を通じて数々のご教示をいただきました。この成果は必ず、RUAの大学院教育に反映されると確信します。滞在期間中にICCAEスタッフの皆様からいただいた温かいおもてなしに、心から感謝いたします。



略歴 1965年生まれ。1989年RUA農業工学部卒業。1990~1991年農林水産省農業工学科技術師。1996年アジア技術大学(AIT;タイ・バンコック)大学院修了(農業機械管理学修士)。1991年RUA教官として採用される。1997年1月RUA農業工学部副学部長。2000年1月~同学部長。

アフリカ3カ国訪問記

プロジェクト開発研究領域 門平 睦代

平成14年1月26日~2月19日の間、ケニア、ウガンダ、ザンビアの3カ国を訪問した。ケニアではナイロビ大学とジョモケニヤッタ農工大学(AICAD本部)、ウガンダではマケレレ大学、ザンビアではザンビア大学の教官らと懇談した。本センターと将来的に交流協定を結ぶ可能性の有無につき予備調査を行うとともに、共同研究や新規開発プロジェクトを立ち上げる可能性についても探った。3カ国における大学運営システムは類似しているが、隣国同士でも交換レートがかなり違うこと(US1ドルの換金レートは、ケニア75、ウガンダ1700、ザンビア4000)を、短期間の滞在であったので、より切実に実感した。今回の訪問を通じて、貧困緩和のための人づくりを目指すAICAD事業へ8大

学が参画したことや、ウガンダ国の「貧困対策委員会」にマケレレ大学社会学部教員が委員として選出されたことなど各大学が貧困克服に関わる課題に真摯に取り組む姿勢を身近かに見聞して、心強く感じた。



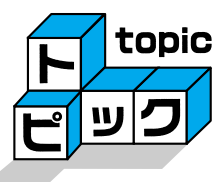
ザンビア大学獣医学部附属家畜病院のスタッフと

ナミビア大学農学部強化 支援計画の現地から

JICA長期専門家（協力企画） 加藤由美子

1995年の設立から間もないナミビア大学農学部で、ナミビア人教官の育成を支援するため、2ヵ年の予定で国際協力事業団（JICA）長期専門家として、2002年2月に赴任しました。作物生理学、養鶏、統合環境学の3分野においてナミビア人教官を対象とした技術協力が予定されており、その調整およびナミビア農業の情報収集等の業務を行っています。

本計画は始まったばかりであり、ナミビア大学農学部もJICAとの技術協力は初めてとあって、手探り状態ですが、すでに作物生理学の短期専門家が来訪し、カウンターパートへの技術移転の一部を行いました。いろいろな分野で人材が不足しており、JICAの協力による「人づくり」が大きく期待されています。ICCAEの協力を得て、微力ながら本計画の発展に寄与すべく駆けずり回る毎日です。



ICCAEで途上国の大学事務職員に 対する研修を実施

ICCAEでは、途上国の大学から要望の多い、大学事務職員を対象とした実務処理の改善を目的とする事務研修を、名古屋大学本部（国際交流課等）および大学院生命農学研究科事務部（教務学生掛等）の協力を得て、本年2～3月に2回実施した。この取り組みは、大学運営の改善を図る上で教育支援職員が果たす役割を重視したもので、従来あまり省みられなかった面からの途上国への“人づくり支援”形態として、ユニークなものと考えられる。2名の参加者はいずれも、所属大学の事務処理改善方策を検討する上で、名古屋大学での実務処理体制の視察は大変参考になった、と述べている。

- (1) 2002年2月3日～26日 Ms. Seng MOM カンボジア王立農業大学 国際協力計画部長、カンボジア
- (2) 2002年3月17日～29日 Mr. Z.J.N. KAZAPUA ナミビア大学 学部長、ナミビア

名古屋大学国際フォーラム2002 ～新世紀を築く大学の英知～

日時／2002年6月23日（日）9：30～17：00

会場／名古屋大学豊田講堂

サテライトフォーラムの開催予告

主催／名古屋大学大学院生命農学研究科
名古屋大学農学国際教育協力研究センター
名古屋大学生物分子応答研究センター

日時／2002年6月20日（木）～21日（金）
会場／名古屋大学大学院生命農学研究科

テーマ Sustainable Agricultural System in Asia

6月20日（木）……午前：Session 1：Sustainable Bioproduction System

午後：Session 2：Biotechnology for Sustainable Bioproduction

夕方：レセプション

6月21日（金）……9：00～16：10：Session 3：International Collaboration for Sustainable Bioproduction

■第3セッション・プログラム「持続的生物生産のための国際協力」：（以下、いずれも仮訳）

- 1) 名古屋大学生命農学研究科における国際共同研究を通じた研究教育発展の展望
塚越規弘（名古屋大学生命農学研究科教授、前同大留学生センター長）
- 2) カセサート大学における研究教育および国際協力の課題と帰国留学生の役割
Dr. Supat Attathom（カセサート大学農学部植物病理学科長、タイ）
- 3) 東南アジアの農業分野における人づくりに果たすSEARCAの役割
Dr. Ruben L. Villareal（SEARCA所長、フィリピン）
- 4) 農業開発と人材育成のための南々協力を含む国際協力に関わるAICAD（アフリカ人づくり拠点）プロジェクトの経験と展望
Mr. T.J. Msogoya（ソコイネ農業大学講師、タンザニア、ICCAE客員教授）
- 5) 国際農林水産業研究センター（JIRCAS）における人材育成と大学との連携
杉野智英（国際農林水産業研究センター主任研究官）
- 6) 国際協力を形成・強化するためのODAプロジェクトの評価
三好皓一（国際協力事業団国際協力専門員、ICCAE客員教授）
- 7) 持続的農業のための人材育成に果たす名古屋大学ICCAEの役割
松本哲男（名古屋大学ICCAE教授）